

平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272101015		
法人名	有限会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム サニーライフ		
所在地	〒038-2501 青森県西津軽郡深浦町大字柳田字桜田34-5		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然の中で、入居者が自分のペースで穏やかに生活できるように支援しています。家庭的な雰囲気の中で自由のんびり、一緒に楽しく過ごしていただけるよう職員間で話し合い、創意工夫し入居者の安心のできる場所作りに努めております。また、高齢化に伴い認知力、身体的能力などの低下が見られるようになってきており、できる限り生活の中でなんらかの刺激をもっていただくために音楽を聴く、歌う、体を動かす、考える等レク活動を通して意欲的に参加し、楽しんでいただけるように努力をしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然の中、温かい雰囲気をかもし出すように努め、入居者の自立を支援し、安心して生活して頂くという理念を基に入居者一人一人に合わせた支援が出来るよう取り組まれている。防災・災害訓練も定期的実施され、独自の工夫もされている。往診医や医療機関と連携が取られており、入居者の様態が重度化した場合は、医師、看護師、介護職員、本人、ご家族と本人にとってよりよい支援がなされる様に随時話し合いが行われ、看取りケア・終末期ケアの対応をしている。事業所のできる事を明確にし他入居者への影響も踏まえて取り組みをし、対応されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成27年10月28日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の支援を通じて理念を実践する為に申送り時、会議などで振り返る機会を設けいつでも目に届くところに掲示している。	地域密着型としての理念を掲げ、「地域」に根差した事業所を目指し、定期的な会議の場や日々の申し送りを利用し、職員全員が理念を良く理解し業務にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に保育所・小学校・中学校があり行事がある度に招待をいただいたり、地域でボランティア活動をされている方々と交流がもてるように働きかけ実践している。	地域の方と挨拶を交わしたり、魚や野菜、山菜の差し入れを貰っている。また、ねぶたやバーベキュー等町の行事への参加もされている。近隣の理容院や美容院のボランティアの受け入れもあり、地域の人々との関わりを大切にしている。	近隣の保育所・小学校・中学校、地域でボランティア活動をされている方々ともう少し交流がもてるように働きかけを行っていく事に今後期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催時に支援方法を観ていただいている。また地域交流ができることも啓発している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの日々の取り組みの状況や対応を報告し理解してもらおうと共に、話し合いや助言をいただいている。また会議の結果を全職員が確認し、サービスの向上に繋げている。	会議には、行政職員・家族代表者・管理者が出席し開催されている。日々のサービス内容等報告し、課題や気づき等について意見交換が行われ、それらの結果をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議の欠席者に対して資料や会議の内容について、文書でお知らせするなどし、運営推進会議が単発的な内容にならないよう、後日意見を伺うなど、関わりをもてる取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当施設の状況、連絡など取りあい、相談したり協力していただいている。町の地域連絡会議にも積極的に参加するよう心がけている。	市町村担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情等を伝える機会を作り、地域密着型サービスについて情報の共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束によって入居者様が受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束のないケアを目指している。	マニュアルが整備されており、勉強会も実施している。ベッドからの転落や立ち上り時の転倒防止のために離床センサーの利用の必要がある場合は、家族に説明し了解の上で利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人が十分注意しケアを行うようにしている。施設内研修や外部研修にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護事業を活用している。全職員が勉強しながら支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分に理解してもらえるように説明し、同意を得ている。解約時には、本人や家族の希望に添うように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの声を聞くように努めているが、自分から訴えの出ない方に関しては会話の中や表情に注意し理解するように努めている。ご家族に関しては面会時や電話で状況報告をしながら確認している。	入居者からは、普段のコミュニケーションや行動面等から要望を伺い、家族には面会時や電話、書類送付時に近況報告や要望等を確認し、ミーティング等で話し合い、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のコミュニケーションを図り、送り時や会議などで意見や提案などを吸い上げ、より良いケアができるように努めている。	定期の会議等に限らず、何かあった時は随時ミーティングを行い、職員間で意見交換を行い、すぐに解決できるようにしている。代表者も会議に参加され全体と意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議を利用し、法人の動向などの周知を行っている。個人面談等で各職員の意見を聞くことに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に職員が万遍なく参加できるように調整し、研修を受ける機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成者と職員は、行政の主催する会議や勉強会に出席し、同業者との交流を深めている。それを他職員にも伝えサービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時、ご本人とご家族の希望を聴き、要望に耳を傾けている。不十分な点に関しては再度確認を取り施設への不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り時点でよく話を聞き、ご家族様が何を施設に要望しているのか、事業所側がどういった事に対応できるのか説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で最初に何が必要かを見極めて支援を始めている。行政や医療機関、他事業者からも情報提供を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭におき、まごころを持ち人生に寄り添う気持ちでケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への情報報告を密に行い、現在の状態を分かっていたできるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人に会いに来ていただいたり通院の際や車でドライブがてらふるさと巡りをして馴染みが途切れないように支援している。	入居前に暮らしていた地域の友人や知人に会いに来ていただいたり、面会時の写真を部屋に飾るなどされ、関わりを継続している。	本人と馴染みの深い人たちや商店、近所の人達、また、老人会や町内会等のネットワークを広げる事に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、食堂の席の配置や日中過ごす場所に配慮し居心地の良い空間になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じ退所後の相談にあたっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に担当者がいて思いや意向などを聴き把握するようにしている。また会議などで全員の情報交換をして共有し支援を行っている。	職員の寄り添うケアが実践されており、日々の生活の中から思いを汲み取るように努力されている。意思表示が出来ない入居者に関しては、家族からも情報を集めて、個性を尊重し生きがいのある生活が送れるよう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また必要に応じて在宅で担当した支援事業者からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、職員会議や申し送りの話の中から一人一人の体調、性格、出来事など把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のグループホーム会議で一人一人の事を話し合い、モニタリングの見直しを行い、ケアの確認とその人に合った支援を提供できるように努めている。	家族の面会時や電話、書類送付時等に、近況報告を行ったり、要望等を伺うように努め介護計画を作成している。定期的な見直しは勿論、状態が変化した時にもモニタリングを実施し、ケアの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、本人の言葉やケアの実践の結果を記録し情報の共有をしながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な支援ができるようにしている。訪問看護ステーションによる点滴や、入退院時の送迎、入院中の洗濯なども必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問を取り入れたたり、民生委員や地域包括支援センターから周辺情報や支援に関する情報をいただき、必要に応じて協力を働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。主治医はご本人の想いを聴きだし、事業所にも適切なアドバイスをいただいている。	入居前からのかかりつけ医での受診を継続できるように支援している。受診結果については、家族に報告している。緊急時は協力医療機関の協力も得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良の方が出た場合は医療機関へ連絡を行い、状況、状態を報告し指示やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と施設での情報交換を行い、入退院時に向けた相談を病院・ご家族と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化をご家族・医師・看護師へ報告している。施設側で対応できる範囲をご家族へ説明し以後の方針の共有を行っている。	重度化の指針があり、終末期の同意書も準備している。希望時は、看取りを行っており、状態変化に基づき、家族とは連絡を密にしている。往診や訪問看護を利用され、事業所の出来ることを十分に家族に説明し、情報交換をしてチームケアを提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で対応についての研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町の災害訓練に参加したり自主的な訓練も計画し実施している。近隣との協力体制も築いている。	避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回以上実施している。火災や地震、水害時に備えて、食料、排泄、寒さをしのげるような物品、本人を確認できるような物が準備されている。	消防団や近隣に会社がある為、協力関係が築ける様働きかける事に今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や人格を理解しながら、その方に合った話し方を心掛け対応している。	入居者の発する言葉に耳を傾け、年長者として敬意を払い、人格を大事にした声掛け、目立たずさりげない声掛けや、上から目線にならないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自の意思を尊重し、思いを伝えることが出来るような誘導支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを大事に臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿った服装や髪型が出来るように個々に担当職員を決め衣類管理他、居室の環境整備に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその方の意向を確認しながら食べたい物を用意したり、行事食も取り入れ喜んでいただけよう工夫している。また山菜の下ごしらえもお手伝いしていただき昔馴染みの作業のようで一生涯懸命取り組まれている。	キッチンリビングの隣り合わせにあり、調理の様子が伺える。旬の食材や新鮮なものを採り入れ、入居者の好みや苦手なものを踏まえた上で、メニューを工夫し、入居者と職員が同じ食卓を囲んで食べることを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせた量や切り方、栄養バランス、盛り付ける器にも工夫をしている。1日の水分量や総摂取量などもさりげなく把握するように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、見守り介助を行い口腔ケアに努めている。夜間は除菌剤で消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	起床時の排泄の声掛けから始まりおやつ、食事の前後等声を掛け誘導を行っている。夜間は定期的に起こしたり、気配を察して誘導したり、その人に沿った支援をしている。	トイレでの排泄を可能にする為、入居者の様子から察知したり、チェック表等を活用したり、行きたいときにトイレに行くことができるよう、本人の生活のリズムにそった支援に努め、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックでパターンを把握し、必要に応じて医師に相談しながら排便コントロールを行っている。歩行や軽体操を毎日行ったり、水分摂取量にも注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	裸になることへの羞恥心や不安、恐怖心を考慮しながら一人一人の希望する時間や順番に入浴できるよう考慮している。	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入浴したい日、時間に合わせて入浴している。衣類を人に脱がされたり、裸になることへの不安や羞恥心、恐怖心をもたらすことを職員が理解し、安心感を持ってもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調に合わせて居室またはホールで過ごしていただいている。夜間は明るさなど個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録ファイルに薬の説明書を綴り、常に確認できるようにしている。変更時には申送り簿に記入し全職員が把握している。服薬後は、状態の変化に気付けるように見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴を考慮しながら洗濯物たたみや食事作り、ゲーム等を職員と一緒にしたり見守りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習慣や希望に合わせて、ご家族の協力も得ながら対応している。天気の良い日は個々の状態に合わせて可能な限り外へ出るように努めている。	年間の行事外出の他、入居者・家族の希望や要望を取り入れ、人とのふれあいや季節の変化を感じて頂けるように支援している。歩行困難なケースでも、車や車椅子等を利用し、戸外へ出ることを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関心のある入居者様は一人で管理の出来る範囲の小遣いを所持している。関心のない入居者様はご家族同意のもとお小遣い分として施設が預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた際にお礼の電話をしたり、ご家族からの電話に出て会話を楽しまれている方もいる。年賀状を出したり、写真を送るなど元気な姿を見ていただけるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切に季節や行事に合わせたレイアウトを心掛けている。居間のテレビや音楽の音量は、その時の状態に合わせるなどの配慮をしたり、ブラインドで光の調節を行っている。	事業所内は、自然の採光が差し込み明るく、窓からの見晴らしがよい。ホールにはソファが設置されており、ゆったり過ごせるようにしてある。居室の飾りつけにも工夫がされ、懐かしさを感じる配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファは、気の合う入居者様が隣に座るなど考慮して居心地を良くしている。玄関前や廊下にソファや藤の椅子、テーブルを設置しており好みの場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や好みの物、ご家族からの贈り物の飾りや写真などを置き、くつろげるように雰囲気作りをしている。	使い慣れた家具を持ち込み、好きなように配置されている。身体状況に応じて、ベッドや布団を使い分け、それぞれの入居者の居心地のよさを配慮し、安心して過ごせる空間がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには大きめな日めくりカレンダーを掲示している。個々の状態に合わせベッドの高さなど自立にて起き上がりが楽なように対応している。またトイレ、居室がわかりやすいように表示している。		